

2018 年春号 研究室だより

2017 年度の西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

2017 年度の教員スタッフについて、岡崎敦教授（フランス中世史・アーカイブズ学）に加え、4 月より第一次世界大戦後のドイツの義勇軍をご専門とする今井宏昌講師をお迎えすることができました。今井先生は福岡大学の星乃治彦先生のもとで研鑽を積み、東京大学で博士号を取得されました。ハレ大学留学の後、学振の特別研究員を経て九州大学文学部に着任されました。また、非常勤講師として、学内から野々村淑子先生（教育学部・イングランド中世史）、学外から佐賀大学より都築彰先生（イングランド中世史）、福岡大学より森丈夫先生（初期アメリカ史）をお招きし、多彩なテーマの演習が開講されました。

在籍する学生の総数は学部生・大学院生併せて 21 名となりました。定員超過となった昨年とは打って変わって、本年度の進学生は 2 名。穴見亮平さん、中山美月さんと少数精鋭が揃いました。また、研究室の OG である大濱聖香子さん（フランス中世史）と高津智子さん（欧州統合史）が、この度目出度く博士論論文を完成され、それぞれ 2 月と 9 月に公聴会が行われたこと、また同じく大場はるかさんが、久留米大学文学部に奉職されましたことをご報告いたします。

2017 年度の西洋史学研究室は、新たな進取の気風が生じた年であったと言えるでしょう。岡崎先生は本年還暦を迎えられ、ますますお元気になられたようで圧倒されるばかりです。また、今井先生は大変気さくな方で、講義、演習はもちろん、学生相談や研究室運営においてもご尽力いただきました。

環境面での変化もございました。移転へ向けた準備が進むで、研究室にはソファや新たな椅子を備え付け、厳しい予算の中で PC を買い換えるなど、充実した環境の中で一層研究活動に磨きをかけることができるようになりました。多様な関心を持つ学生同士が切磋琢磨しあうことで、研究室の空気は学生数が倍増した昨年同様にぎやかで張りのあるものになりつつあります。

本研究室主体の学会・研究会関係については、4 月に本学文学部会議室で行われた九州西洋史学会では着任早々の今井先生が登壇され、大変な盛会でありました。学生も多く参加し先端の研究を興味深く拝聴いたしました。7 月の九州西洋史学会若手部会では坂本と平田が今井先生のゼミ報告を行うなど、積極的に学会に参加しております。12 月には熊本大学にて九州西洋史学会が開催され、その翌週に九州史学会が開催されました。

本年度が箱崎キャンパスにおける最後の九州史学会ということで、西洋史部会においても「箱崎の西洋史学 ―歴史の中の九州大学文学部西洋史学研究室―」と題する報告が岡崎先生と学部生によって行われました。この報告にあたっては、西洋史講座創設以来、西洋史学から提出されたほぼ全員分の卒業論文題目のデータ化と分析を行いました。また、本年度より、福岡在住の西洋史学研究者有志による「西洋史学情報交換会」が設立され、最新の研究・学会動向情報などの交換や相互協力の促進を目指して活動しています。このように研究活動もますます活発になり、学生たちも積極的に参加することにより九大西洋史の更なる発展が期待されます。

最後に、現在進行中の活動についての報告ですが、西洋史学研究室に残された卒業論文や写真・アルバム、研究室日誌などの資料の整理事業に着手しました。この活動は、卒業生が遺された資料をもとに研究室での学生生活を蘇らせ、それを後世に伝えることが目的です。その成果はホームページなどを通じて発信してまいりますので、ぜひご覧ください。そして、ぜひとも研究室をお訪ねください。

末筆ながら、皆様のご健勝、並びにより一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。  
訃報

本研究室の卒業生で佐賀大学名誉教授であられました前間良爾先生が、2017年9月9日にご病気のため逝去されました。深くご冥福をお祈り致します。

(文責 坂本隼人、平田哲也)

#### 会員近著

大場はるかほか 『記憶と忘却のドイツ宗教改革―語りなおす歴史 1517-2017』 ミネルヴァ書房 2017年

熊野直樹ほか 『ドイツと東アジア 一八九〇 - 一九四五』 東京大学出版会 2017年

古賀秀男ほか 『イギリスの歴史を知るための50章』 明石書店 2016年

星乃治彦ほか 『ドイツの歴史を知るための50章』 明石書店 2016年

宮松浩憲 『中世、ロワール川のほとりで聖者たちと。』 九州大学出版会 2017年